立命館大学大学院
2018年度実施　入学試験
修士課程
言語教育情報研究科
言語教育情報専攻

入試方式	コース	実施月	学科試験(英語教育学、英語学)	
			ページ	備考
一般入学試験	言語教育学コース 英語教育学プログラム	7月 （2018年9月入学）	P.1～	
		9月	P.3～	
		2月	P.5～	
社会人入学試験（一般）		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（自己推薦）		9月		
		2月		
社会人入学試験（協定）		9月		
		2月		
外国人留学生入学試験		7月 （2018年9月入学）	×	
		9月	P.3～	
		2月	P.5～	
学内進学入学試験		7月		
		9月		
		2月		
APU特別受入入学試験 ※卒業して入学しようとする者は 学科試験なし		7月 （2018年9月入学）		
		9月	×	
		2月	×	
飛び級入学試験		2月	×	

立命館大学大学院
2018年度実施　入学試験
修士課程
言語教育情報研究科
言語教育情報専攻

入試方式	コース	実施月	学科試験（日本語教育学、日本語学）	
			ページ	備考
一般入学試験	言語教育学コース 日本語教育学プログラム	9月	P.7～	
		2月	×	
社会人入学試験（一般）		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（自己推薦）		9月		
		2月		
社会人入学試験（協定）		9月		
		2月		
外国人留学生入学試験		9月	P.7～	
		2月	P.12～	
学内進学入学試験		7月		
		9月		
		2月		
APU特別受入入学試験 ※卒業して入学しようとする者は学科試験なし		7月 （2018年9月入学）		
		9月		
		2月		
飛び級入学試験		2月		

立命館大学大学院
2018年度実施　入学試験
修士課程
言語教育情報研究科
言語教育情報専攻

入試方式	コース	実施月	学科試験 （英語学、言語学、社会言語学）	
			ページ	備考
一般入学試験	言語情報コミュニケーション 英語を研究対象言語と することを志望する場合	7月 （2018年9月入学）	×	
		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（一般）		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（自己推薦）		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（協定）		9月	×	
		2月	×	
外国人留学生入学試験		7月 （2018年9月入学）	×	
		9月	×	
		2月	×	
学内進学入学試験		7月		
		9月		
		2月		
APU特別受入入学試験 ※卒業して入学しようとする者は学科試験なし		7月 （2018年9月入学）		
		9月	×	
		2月	×	
飛び級入学試験		2月	×	

立命館大学大学院
2018年度実施　入学試験
修士課程
言語教育情報研究科
言語教育情報専攻

入試方式	コース	実施月	学科試験 （日本語学、言語学、社会言語学）	
			ページ	備考
一般入学試験	言語情報コミュニケーションコース 日本語を研究対象とすることを志望する場合	7月 （2018年9月入学）	×	
		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（一般）		9月	×	
		2月	×	
社会人入学試験（自己推薦）		9月		
		2月		
社会人入学試験（協定）		9月		
		2月		
外国人留学生入学試験		7月 （2018年9月入学）	P.16～	問Ⅰ.は窓口公開のみ （WEB非公開）
		9月	P.18～	
		2月	P.21～	
学内進学入学試験		7月		
		9月		
		2月		
APU特別受入入学試験 ※卒業して入学しようとする者は学科試験なし		7月 （2018年9月入学）		
		9月	×	
		2月	×	
飛び級入学試験		2月	×	

2018 年 9 月入学立命館大学大学院（2018 年 7 月 1 日実施）

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

〔 言語教育学コース英語教育学プログラム 〕

入学試験問題

一般入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	80 分	Question 1 は必ず解答すること 英語で解答すること Question 2・Question 3 のうちいずれか１問を選択し解答すること 英語または日本語で解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

１． 解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問１枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない)。
２． 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
３． 問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際は、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
４． 辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

Question 1.
It is sometimes claimed that Japanese has an honorifics (*Keigo*) system, while English does not. How far do you agree? Discuss English polite expressions, giving some specific examples.

Question 2.
Outline the role of emotions in second language acquisition. In what ways do various situations promote positive or negative conditions for effective learning? Give specific answers to support your answer.

Question 3.
Name two teaching methods or approaches such as Grammar-translation method, Audio-lingual approach, Content Language Integrated Learning or any other that you know, and compare them in terms of how effective each method/approach is. Answer with respect to learners in a teaching context that you know well.

2019 年 4 月入学立命館大学大学院（2018 年 9 月 8 日実施）

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

〔 言語教育学コース英語教育学プログラム 〕

入学試験問題

一般入学試験

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	100 分	Question 1・Question 2・Question 3： ３問すべてに解答すること Question 1 は英語で解答すること Question 2・Question 3 は英語または日本語で解答すること
外国人留学生入学試験	80 分	Question 1 は必ず解答すること 英語で解答すること Question 2・Question 3 のうちいずれか１問を選択し解答すること 英語または日本語で解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

１． 解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問１枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない）。
２． 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
３． 外国人留学生入学試験受験者は、問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
４． 辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

Question 1.
Discuss the issue of age in acquiring a second or foreign language, providing specific examples.

Question 2.
How important is lots of simplified input (e.g. extensive reading/listening) in foreign language learning? Give your reasons, plus your views about how such an educational approach can be effectively carried out in an educational setting.

Question 3.
Bilinguals use a linguistic strategy called code-switching (i.e. a speaker changes between two or more languages in the context of a single conversation). State your opinions as to the reasons why they employ such a strategy, providing specific examples.

2019年4月入学立命館大学大学院(2019年2月11日実施)

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

〔 言語教育学コース英語教育学プログラム 〕

入学試験問題

一般入学試験

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	100分	Question 1・Question 2・Question 3： 3問すべてに解答すること Question 1は英語で解答すること Question 2・Question 3は英語または日本語で解答すること
外国人留学生入学試験	80分	Question 1は必ず解答すること 英語で解答すること Question 2・Question 3のうちいずれか 1問を選択し解答すること 英語または日本語で解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

1．解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問1枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない）。
2．配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3．外国人留学生入学試験受験者は、問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
4．辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

Question 1.
Among the four skills of listening, speaking, reading, and writing, pick one skill and discuss your opinions about effective teaching for EFL (English as a foreign language) learners. Support your opinions by providing concrete examples.

Question 2.
To what extent, do local (minor) or global (major) errors impede L2 communication? Discuss and illustrate your answer with examples.

Question 3.
Concerning second language learning, why do some individuals find it easier than others to master features of grammar, pronunciation, vocabulary, pragmatics and so forth? Give specific reasons and explanations to support your opinions.

2019 年 4 月入学立命館大学大学院（2018 年 9 月 8 日実施）

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

〔言語教育学コース日本語教育学プログラム〕

入学試験問題

一般入学試験

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	100 分	問Ⅰ・問Ⅱ・問Ⅲの３問すべてに解答すること
外国人留学生入学試験	80 分	問Ⅰは必ず解答すること 問Ⅱ・問Ⅲのうちいずれか１問を選択し解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

１．解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問１枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない）。
２．配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
３．外国人留学生入学試験受験者は、問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
４．辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

問Ⅰ.

次の文章は、福岡方言の「行く」と「来る」の用法について説明したものである。以下の 2 点に答えなさい。

①筆者の主張を要約しなさい。

②この方言と日本語共通語またはあなたの母語・母方言の「行く」「来る」のような移動動詞の用法を比較し、それぞれの特徴について論じなさい。

この節では、「方言用法」の概略的記述をいくつかの場面を設定しながら行うが、その際次のような分類をしておく方が便利である。

I.　話し手自身（A）の移動行為が問題となる場合

II.　聞き手（B）の移動行為が問題となる場合

III. 話し手でもなく聞き手でもない第三者（C）の移動行為が問題となる場合

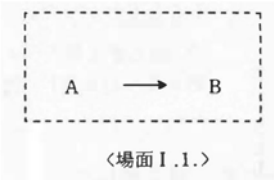
以下、この順で記述する。なお以後、方言語法ないし方言文（福岡市の若年層で一般的なもの）はカタカナ漢字混じりで表記し、必要最小限の共通語訳を（ ）内につける。また図の矢印→は、分析の対象となっている移動行為を表し、矢印-->は直接の分析対象にはならない付随的な移動行為を表す。

I. 話し手自身（A）の移動行為が問題となる場合

I.1.〈場面 I.1.〉A、B はそれぞれ自宅に居り、電話で話している

B：今カラコッチニ来ン（来ない）？

A：ウン、ジャスグ来ルケン（行くから）



〈場面Ⅰ.1.〉

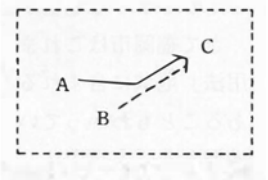
つまり聞き手のもとへ向かう行為では‘話し手自身が動く’場合でも「来ル」が使われる。また目的地が B の家の近くだとか、B の会社だとか、B の領域に属するものという認識が A にあれば、同様に「来ル」が使える。またもしこの場面で、A の発話に「行ク」が用いられたとすれば、それは A が B（の領域）以外の場所へ向かうことを意味することになる。

I.2.〈場面 I.2.〉A は、C の家に行く途中の B にばったり会う

A：ドコ行キヨート（どこに行くの）？

B：C サンチヤケド（C さんちだけど）

A：一緒ニ来テヨカ（行っていい）？



〈場面Ⅰ.2.〉

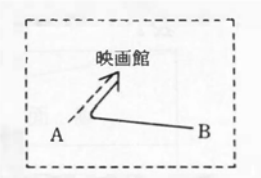
つまり聞き手以外の第三の場所（B の家でもなく B に属する領域とも言えない）へ向か

う場合でも、「来ル」が使われることがわかる。

II. 聞き手（B）の移動行為が問題となる場合

〈場面 II.〉A、B はそれぞれ自宅に居り、A が B を映画に誘う

A：今カラ映画見ニ行クッチャケド（行くんだけど）一緒ニ来ン（行かない）？



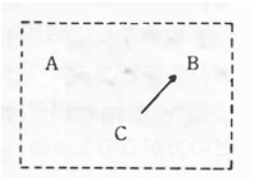
〈場面 II.〉

ここで A の念頭にあるのは、B が A の自宅にやって来て一緒に出かけるか、あるいは映画館に行く途中で B が A に合流するかという状況である。この場面では共通語の方では「行く」であり、「来る」の使用が可能なのは、A のうちが映画館を経営しているとか、A がすでに映画館に到着しておりそこから電話で B を誘っているという場合などである。これはこの場合、共通語「行く」が話し手と聞き手両方の移動行為をイメージできるのに対して、「来る」はもっぱら聞き手の移動行為に注目する視点しか取れないからだと思われる。一方「方言用法」では、I.2.と II.の場面で「来ル」が可能であることから、I.1.で見た‘聞き手のもとへ向かう移動行為’のみならず、‘聞き手以外の第三の場所へ向かう移動行為’にも用いられることがわかる。ただしこれには条件があり、あくまでもこの第三の場所が‘話し手 A または聞き手 B の明確な目的地’となっている（と話し手 A が見なす）必要がある。おそらくこの条件下では移動行為の目的地が、場面 I.2.では聞き手 B に、場面 II.では話し手 A に、一時的にせよ、属する領域と話し手 A が見なし得るからであろう。もしそうでない時には「行ク」が用いられる。

III. 第三者（C）の移動行為が問題となる場合

〈場面 III.〉C が B の家へ行くことを、A は電話で C から知らされ、それを電話で B に伝える

A：C サンガ電話デ、今日ソッチニ来ルテ言イヨッタ（行くって言ってた）



〈場面 III.〉

この場面で「来ル」が用いられても必ずしもそれは「方言用法」とは言えない。それは非「方言用法」話者でも、もし A と B が東京に住んでおり、C が福岡に住んでいるという状況を考えれば十分に「来る」が可能であるしむしろその方が自然であるからである。つまり三者の位置関係の把握の仕方により、A が C の移動を自分に属する領域にやって来るものと見なせば「来る」の方が自然となるのである。しかしながら通常イメージするより一般的な場合で、例えば A、B、C 三者が互いにほぼ等距離にいると仮定されるような場合には、非「方言用法」では「行く」が一般的となり、「方言用法」との間に違いが出てくる。

これまでの分析から「方言用法」をまとめれば、‘話し手または聞き手（に属する領域）へ向かう移動行為（と話し手が見なす）時に「来ル」が用いられ、それ以外の場合に「行ク」を用いる’と言えるであろう。

さて一般にどのような語であれ、いくつかの（実際には無限の）用法があり、その中には最もふさわしいものから、話者の間で自然性の判断についてかなりの揺れが見られる周辺的な用法まで様々の段階があると考えられる。そこで、ここでさらに検討したいのは、上述の場面における「方言用法」の自然さないし許容度に関することである。表 1 は、上述 I.1. と I.2.の用法について、福岡市内の大学に在学する福岡市を中心とする肥筑方言圏出身の「方言用法」話者 75 名に対して、‘自分でも使用する（略称‘使用’）’、‘自分は使用しないが自然である（同じく‘自然’）’、‘不自然である（同じく‘不自然’）’の 3 つの選択肢で答えてもらったものの集計である。従ってこの結果は肥筑方言圏の若年層についてのものである。

表 1

場面＼回答	使用	自然	不自然
I.1.（話し手が）聞き手のところへ向かう	66	9	0
I.2.（話し手が）聞き手と共に第三の場所へ向かう	23	20	32

この表から伺えることは、「方言用法」の典型はやはり I.1.であり、第三の場所へ向かうとなると許容度がかなり落ちるということである。これは移動行為の到達点がどの程度聞き手の領域と（話し手が）見なせるかに依っているのであり、このことは結局、久野（1978:253、254）の日本語共通語についての指摘と同じく、‘聞き手への感情移入がし易いほど「来ル」が出易い’ということを意味するものと思われる。

なお、話者の出身地域別にこの傾向を見た印象では、福岡市よりも筑後、佐賀、長崎などの方がこの二つの用法間の落差が少なく、「方言用法」の広いことが伺われた。

出典 ： 陣内正敬 「『来る』の方言用法と待遇行動」『国語学』，
国語学会(現：日本語学会)， 1991年 pp. 89-87.
<https://www.jpling.gr.jp/kikansi/k_soumoku/k_soumoku_161_180/#vol-167>, 一部改編あり。
権利者の許可を得て掲載。

問Ⅱ.

次の２つの考え方は、学習者の発話練習についての考え方である。あなたの考えを述べなさい。問題がある場合は、解決策も書きなさい。

＜考え方１＞　言語の習得には、発音、語彙、文法が非常に重要である。学習者は、日本人のようになりたいと考えており、また、誤用が化石化する可能性もあるので、学習者が間違えた場合は、できるだけ早く誤用を直す必要がある。

＜考え方２＞　言語を学ぶ目的はコミュニケーションの仕方を学ぶためである。したがって、学習者の発話は意味が通じればよい。発音、語彙、文法の誤用を訂正させることは、コミュニケーションを阻害することになり、また、学習者が自信を失う可能性があるので、行うべきではない。

問Ⅲ.

日本語の使役表現は、［Xに　V使役形］、または、［Xを　V使役形］というように、被使役者X（または被使役物X）を助詞「に」または「を」で受ける（「は/も」などは除く）。使役表現におけるこの「に」と「を」の使い分けについて、例文をあげてできるだけ詳しく説明しなさい。

2019年4月入学立命館大学大学院(2019年2月11日実施)

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

〔言語教育学コース日本語教育学プログラム〕

入学試験問題

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
社会人入学試験（一般） 外国人留学生入学試験	80分	問Ⅰは必ず解答すること 問Ⅱ・問Ⅲのうちいずれか1問を選択し解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

1．解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問1枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない）。
2．配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3．外国人留学生入学試験受験者は、問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
4．辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

問Ⅰ.

次の文章を読み、以下の2点に答えなさい。

①筆者の主張について要約しなさい。

②筆者が述べている 21 世紀における言語教育の目的に対してあなたの考えを論じなさい。

「トランスランゲージング的な規範」

21 世紀の言語教育として今一番脚光を浴びているのが、トランスランゲージングです。トランスランゲージングとは、「バイリンガルの人たちの言語行動を、従来のように独立した 2 つの言語システムによるものと捉えるのではなく、社会的には 2 つの言語に分別的に属するとみなされている言語要素を総括して 1 つの言語レパートリーであるとみなす、言語、バイリンガリズム、および、バイリンガル教育に対するアプローチ」（著者訳）（Garcia & Li Wei, 2014, p. 2）です。バイリンガリズムという単語を便宜上使っていますが、個別の 2 言語という伝統的な意味合いではなく、その伝統的なバイリンガル教育に新しい意味を持たせるという目的で、使われています。このアプローチでは、独立した分別的な言語区分はなく、言語資源の総体をレパートリーとしてみなし、言語教育とは学習者がそのレパートリーをうまく使いこなせるようになるサポートをするものであるとしています。Garcia & Flores （2014）は学生の日常生活を観察するにあたり、学生がいかに言語の境界線を超えてさまざまな活動を行っているかを確認しています。たとえば廊下ではスペイン語と英語がミックスした会話を友人と交わし、教室のグループディスカッションでは、スペイン語で話し合った後、英語の作文の宿題を書くなど、文脈によってさまざまな言語形態が見られたと述べています。Garcia & Flores はこのように「部分的」にいろいろな言語を混ぜたり、1 つのタスクを成し遂げるのにさまざまな言語資源を使って生活しているのを目の当たりにし、トランスランゲージングの重要性と有用性を提唱しています。同様に Canagarajah （2013; 2014）も、従来の言語教育や学校教育はモノリンガル的思考に基づいた同質なコミュニティの存在を前提とした言語教育であり、(1) 学習が使用に先行する、(2) 単一の言語システムをマスターすることが目的となっている、(3) 対象言語の正確性や文法を重視している、(4) 第一言語の干渉を問題視するというような特徴を持っていると批判しています。そして、日常生活に密着した言語学習を推奨し、モノリンガル的な思考を超えた混合的言語の視点からの言語教育、つまりトランスリンガル・プラクティスに則った言語教育を提唱しています。彼の提唱するトランスリンガル的な思考を前提とした言語学習は、(1) 学習と使用は同時に起こる、(2) ことばはマスターするものではなく、終わりのない発展である、(3) 対象言語としてではなく、相互理解を促すレパートリーとして実用的な戦略を学ぶ、(4) 第一言語知識は資源として有効なものである、とその特徴を挙げています。

また、Canagarajah は言語教育ではコミュニティに参加することを究極の目的とするのではなく、コミュニティ間を自由に行き交うことができる能力を身につけることが大切であると主張しています。そのためには、学習者は戦略的にレパートリーを駆使する能力が必要だとします。学習者は、さまざまな社会やコミュニティを日常生活の中で、移動しながら生活しています。社会の多様化が進むと同時に、その社会やコミュニティも影響を受け、変化したり、新しく生まれたりしています。そして、グローバル化の中、多種多様な社会に接する機会もますます増えるでしょう。そのような中で、単一言語のコミュニティに参加することも大切ではありますが、それだけで、言語生活が十分に営めるでしょうか。さまざまな

言語や文化が混在する多数のコミュニティを渡り歩いて、毎日生活しているのが学習者たちの、そして私たちの日常の現実になってきていると思います。 Canagarajah （2013, p. 191）が提唱するように「単一の言語や方言を学習対象とするのではなく、教師は学生がトランスナショナルな接触の場で必要なレパートリーを駆使することができるようになる準備をさせる」（著者訳）というような視野が必要になってきていると思います。

日本語を学習している学生たち（および生活者）は、朝起きてから夜寝るまで多様なコミュニティの間を行き来して日常生活を営んでいます。その中では、形式的にはモノリンガル的な状況でコミュニケーションをとる場面もあれば、いろいろな言語に接しながらコミュニケーションをとる場面にも居合わせているでしょう。その中で、重要なのは、いろいろな言語資源やレパートリーに溢れている世界で、言語能力のレベルに差があっても、そのさまざまなレパートリーを戦略的に駆使して日常生活を営み、他者と協働的に社会生活を営む能力だと思います。そして、さらに深く議論するなら、他者を理解し、他者との協働を通して、教室、コミュニティ、社会、グローバル社会へとつながり、ことばの環境と調和したエコロジカルな多言語話者として積極的に社会に参加する糧やきっかけを与えるのが言語教育の１つの使命ではないかと思います。言語教育におけるエコロジー（生態環境）とは、ことばというものは狭義の言語のシステムとして自己完結するものではないとし、もっと広く、ことばの使用、使用者、使用されている時空間の環境を共時的、通時的に理解する見方です。Kramsch & Whiteside （2008）はエコロジカルな視点を持った上で、多言語環境を積極的に操ったり、自分にあった環境を作ったりする能力が必要だとします。

佐藤・熊谷（2013）は、言語教育の目的は「ある「文化」を超え、様々なリソースを駆使し、批判的にものごとを判断しながら、新しい意味を創造し、積極的に社会に参加・貢献していけるような言語話者になることである」と、本質的主義から乖離し、批判的な言語文化観に基づいた教育観へと目標を転換させる必要性を提唱しています。まさしくグローバル社会においては、常に複数の言語文化資源を臨機応変に駆使し、批判的に判断しながらグローバル社会に参加貢献することを視野に入れた言語教育も検討される必要があるのではないでしょうか。そこでは、単にコミュニティ間を移動するのではなく、多文化・多言語のレパートリーを背負った相手と自分が所有する言語資源を擦り合わせながら、「ことば」、場や環境、コミュニティを作ったり、発展させたりする能力も必要でしょう。そういう意味では、コミュニティの認識も、流動的で、オープンでなくてはいけませんし、「参加」するという意味も固定的なコミュニティに属するというより、人と協働して流動的に、創造的に、そして強いてもう１つ足すとすれば、ことばの環境と調和し、つながったエコロジカルに生きていく場の構築に積極的に貢献するということになります。そこでは「正しさ」「母語話者」「～語」という理念では説明できない言語使用の場が生まれてくると思われます。つまり、従来の狭義的な、学習者が対象言語の「規範」を学ぶという意識から、学習者だけでなく、グローバル化が進む世界で生活を送っている人すべてが種々のレパートリーを駆使してエコロジカルな言語生活を営むのがことばの「規範」であるという意識の転換が必要になってくるのではないでしょうか。

出典：尾辻恵美「世界とつながる言語レパートリー」(トムソン木下千尋編『人とつながり、世界とつながる日本語教育』, くろしお出版, 2016年, pp.58-62.)
権利者の許可を得て掲載。

問Ⅱ.

外国語教育で「オーディオリンガル・メソッド（Audio-Lingual Method）」と呼ばれる教え方に関して、次の3点についてまとめなさい。①どのような教え方でどのような特徴があるのか、②どのような利点・欠点があるのか、③実際に授業内で使う際に留意すべきこと（具体的に）。

問Ⅲ.

留学生の作文に「薬を飲んでも頭痛が治れそうもないので欠席した」という文があった。ここに見られる誤りを文法上の制約として一般化した形で指摘して指導したい。同様の例や対比すべき例などを具体的に挙げつつ説明しなさい。

2018 年 9 月入学立命館大学大学院（2018 年 7 月 1 日実施）

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

（言語情報コミュニケーションコース
（日本語を研究対象とする））

入学試験問題

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
外国人留学生入学試験	80 分	問Ⅰは必ず解答すること 問Ⅱ・問Ⅲのうちいずれか１問を選択し解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

１． 解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問１枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない)。
２． 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
３． 問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際は、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
４． 辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

問Ⅰ.

次の文を読み、以下の 2 問に答えなさい。

現代日本語のキョウダイ名はアニ・アネ・オトウト・イモウトの 4 種類で、その構成は本人から見た年齢差と相手の性別に基づいている。しかし同じ日本語でも、方言レベルで眺めると必ずしも一様でない。日本の本土を離れて、たとえば八丈島の方言では基本的なキョウダイ名は 3 種類で、本土方言の兄と姉に対してはそれぞれアシーとインネという名称があるけれども、年下の弟・妹に対してはキョーデアという 1 種類の名称しかない（杉村 1978)。一方琉球の諸方言を見ると、ここでのキョウダイ名は基本的に 4 種類であるが、その構成は本土の日本語と全く異なる。すなわち、ここで重要な区別はまず本人から見た性差、つまり同性か異性かという関係である。そして同性のキョウダイに対してはさらに年齢差による区別が生じ、一方異性のキョウダイに対しては相手の性別が関与して、「男性から見た女キョウダイ」と「女性から見た男キョウダイ」が区別される。この 4 種のキョウダイ名は、現代語ではかなりの地域差が見られるので、その源となっている古典沖縄語の形で表すと次のようになる（沖縄古語大辞典 1995)。

seza「同性の年上キョウダイ」
otozja/ototo「同性の年下キョウダイ」
wonari「男性から見た女キョウダイ」
wekere「女性から見た男キョウダイ」

（出典：松本克己(2000)「世界諸言語ノキョウダイ名：その多様性と普遍性」『一般言語学論叢』3, pp1-2, 筑波大学一般応用言語学研究室 一部改変）

（1）著者が性差と性別をどのようなものと捉えているか説明しなさい。
（2）高明（18 歳)、喜子（17 歳)、知明（15 歳)、暢子（14 歳）は滋（50 歳）と則子（48 歳）の子どもである。古典沖縄語のキョウダイ名称では、知明にとって他の 3 人のキョウダイは何になるか答えなさい。

問Ⅱ.

各自がこれまで読んできた言語学の研究書を 1 冊取り上げ、その本に関する言語学研究史上の位置付けを行った上で、論評せよ。

問Ⅲ.

いわゆる「慣用句（イディオム)」について、言語学的立場から論ぜよ。

2019 年 4 月入学立命館大学大学院（2018 年 9 月 8 日実施）

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

（言語情報コミュニケーションコース
（日本語を研究対象とする））

入学試験問題

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
外国人留学生入学試験	80 分	問Ⅰは必ず解答すること 問Ⅱ・問Ⅲのうちいずれか１問を選択し解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

１． 解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問１枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない)。
２． 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
３． 問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
４． 辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

問Ⅰ.

次の文を読み、以下の 3 問に答えなさい。

言語学の主要な目標の一つは，言語の形と意味の対応関係を明らかにすることであるが，伝統的な文法組織の捉え方では統語論と形態論はそれぞれ文と語の「形」を扱うとされ，意味に対する配慮は必ずしも十分でなかった。本稿では，構造的制約を追求する従来の統語論，形態論で見落とされていた「属性叙述（property　predication）」という意味機能の重要性を指摘し，属性叙述を表す構造は，通常想定されている統語構造，形態構造とは異なる性質を有することを明らかにする。

属性叙述というのは，時間の流れに応じて展開する出来事，動作，状態など―これらを包括して「事象」と呼ぶ―を描く「事象叙述（event predication）」と対立するものである。事象叙述と属性叙述の違いはこれまでも，海外では状態述語における stage-level predicates（場面レベル述語）と individual-level predicates（個体レベル述語）の区別（Carlson 1980, Krifka et al. 1995）として形式意味論でよく知られており，また，我が国では佐久間（1941）の示唆を発展させた益岡（1987, 2004），益岡（編）（2008）で叙述の類型として論じられているが，その区別が統語構造と形態構造の「形」にどのような影響をもたらすかという問題はほとんど手がつけられていない。

本稿では，属性叙述と事象叙述の区別が人間言語の根幹をなすものであり，これに配慮すると，従来の統語論，形態論において例外視され，適切な扱いがなされなかった数々の現象に対して一定の秩序を与えることができることを示す。すなわち，属性叙述と事象叙述の意味タイプの違いが統語論・形態論の構造を左右するということである。この考え方は，構造様式を重視する従来の統語論・形態論を否定するのではなくむしろ補完するものであり，これを導入することによって「形の学問」としての統語論，形態論の精度を向上させることができる。また，意味論においても，属性叙述と事象叙述という意味的な区別が統語構造，形態構造に形として反映されることが裏付けられることになり，その結果，「形と意味の対応関係の把握」という言語学の目標に一歩近づくことになる。

出典 ： 影山太郎「言語の構造制約と叙述機能」『言語研究』第136集，日本言語学会，2009年，pp. 1-2. <http://www.ls-japan.org/modules/documents/index.php?content_id=39#v136>，一部改編あり。権利者の許可を得て掲載。

（1）「属性叙述」と対立する概念は何か。上の文章の用語で指摘しなさい。

（2）形式意味論における状態述語の分類で、属性叙述と見なすことができるものは何か。上の文章の用語で指摘しなさい。

（3）同じ述語を含む属性叙述の文と事象叙述の文の対を示し、一方の文が属性叙述の文でもう一方の文が事象叙述の文であると言える理由を説明しなさい。なお、述語の品詞は問わない。述語の時制とアスペクトは二つの文で同じである必要はなく、述語以外の文を構成する要素を揃える必要もないものとする。

問Ⅱ.

日本語を扱う学問には日本語学と国語学がある。両者の相違について、研究の歴史を含め、また、しかるべき論文・著書に言及しながら論じなさい。

問Ⅲ.

言語研究を行う際のデータの取得方法は多様である。どのような取得方法があるか、また、それぞれの長所・短所について研究の歴史を踏まえて論じなさい。

2019年4月入学立命館大学大学院（2019年2月11日実施）

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻（修士課程）

（言語情報コミュニケーションコース
（日本語を研究対象とする））

入学試験問題

外国人留学生入学試験

入試方式	試験時間	解答方法
外国人留学生入学試験	80分	問Ⅰは必ず解答すること 問Ⅱ・問Ⅲのうちいずれか1問を選択し解答すること

（途中退室はできません。）

解答にあたっての注意

1．解答は、設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。答案用紙は各問1枚のみ配布する（追加の答案用紙は配布しない）。
2．配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3．問Ⅱまたは問Ⅲに解答する際、答案用紙に選択した問題番号を記入すること。問題番号の記入がない場合は採点対象とならない。
4．辞書の使用は認めない。

＊この問題冊子は、試験終了後に回収します。

問Ⅰ.

次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

未知の言語を調査した際，調査者は調査成果として語彙，文法，テキストをいわば3点セットとして残すことになる。実際の調査においては語彙，文法，テキストのそれぞれに多大な時間を割いているにも拘わらず，多くの場合，論文として公表されるのは，音韻を含めた広い意味での文法に関してである。語彙，テキストが論考の対象となることは文法に比べて少ない。

私は，長年アフリカで言語調査を行ってきた。そして自分も含めたこの(1)テキスト軽視の姿勢に一種の後悔とやり切れなさを感じてきた。実際の問題としては，テキストの取り扱いを軽視せざるをえないことも理解できる。無文字言語の場合，ひと通りの語彙と文法の調査が終わると，次にやるべきはテキストの記録とその分析である。文字のある言語の場合は小説や新聞を題材にデータを集めることができるが，無文字言語の場合は自分でテキストを集める以外にデータを得る手段はないのである。そして多くの場合，調査者は民話・昔話を録音して文字化の作業を行う。

しかしながら，民話は20~30編も集めて分析すれば，それ以上継続しても出てくる新しい単語はせいぜい2,3個ということになるし，また新しい構文も出てくることも稀である。問題は，こうやって集めた数10編の民話をどう処理するかである。意味も構文もすべて分かっている。そういうものに対して形態素分析を加え，グロスをつけることは，自分としては分かっていることに対して，黙々と後始末をつけるという無意味な作業に思えてくるのである。それよりも，次の知らない言語を調査する方が意味があるのではないか。これが私が膨大な数の民話を集めながら，ほとんど発表してこなかった大きな理由である。

しかしながらテキストというのは民話だけではない。民話以外にも様々なジャンルのものが存在する。そういう風に思うようになったのは，民話を精力的に集めテキスト化しようとしていた時である。民話は多くの場合，タイトルがない。題は何かと聞くと，場合によっては最初の出だしのところを言ったり，最後の結論の部分を言ったり，はたまた内容をまとめたりと様々なことがなされる。そして，しばしば内容をまとめる際に，諺で表現するということに気がついた。実際，民話には諺に通じる教訓的な内容のものが多いのである。また，民話，諺などを同じ単語で表す言語も多い。そう考えると，民話の長い長い，そして生き生きとしたストーリーは子供たちにも飽きさせずに聞かせるための方便で，言いたいことは諺で表現できるのではないか。そう考えた時，アフリカの口承文芸の中心にあるのは諺ではないかと思うようになった。そして諺がどのような場で現れてくるかを，気をつけて見るようになったのである。

日本では日常生活において諺に出くわすことは稀である。例えば，何かの総括の時に，「2度あることは3度ある」と言ったり，(2)「弘法も筆の誤り」と言ったりすることはあるが，多くは諺辞典を見たり，あるいは辞書を見たついでに見るのであって，日常生活に密着して現れることはない。しかし，アフリカでは日常生活の多くの場面で現れてくるのである。

出典：梶茂樹「アフリカ人のコミュニケーション．―音・人・ビジュアル―」『言語研究』,第142号(2012年), pp.1-2.
権利者の許可を得て掲載。

（1）下線部(1)の傾向が生じるのはなぜか。上の文章から読み取れる事情を100字以内で説明しなさい。

（2）下線部(2)の一般的な意味を解説しなさい。

問Ⅱ.

以下の文を音素表記した上で、形態素分割しなさい。その後、その分割について、文章で説明しなさい。以下の四角内の例を参考にすること。「=」は接語の境界、「-」は接辞の境界を表すこととする。

結婚すれば幸せになれるは間違ってるの。

＜例＞

分割対象の文：
語彙，テキストが論考の対象となることは文法に比べて少ない。

分割した結果：
goi, tekisuto=ga roNkoo=no taisjoo=to nar-u=koto=wa buNpoo=ni kurabe-te sukuna-i

説明：
「語彙」「論考」「対象」「文法」は２つの漢字から成るが、共時的に分解可能ではないので形態素分割を行わなかった。「文法」は「文の法則」と捉えれば一見分解可能に思えるが、文を構成する単語内部の構成を扱う部門である形態論も文法の一部であることを考えると「文法」＝「文の法則」とは言いがたい。

問Ⅲ.

以下の中から２つを選び、適切な例文および先行研究の概要を示しつつ、言語学的に説明しなさい。

（１）二重「を」格制約
（２）「を」使役文・「に」使役文
（３）間接受身文
（４）連体修飾節（関係節）
（５）軽動詞構文
（６）再帰代名詞